

# いにしえから続く 梨の産地を守り続ける



## 梨の一大産地を守りたい

「幼い頃、曾祖父が農業をする姿を見て育ち、14歳の時には農業をやりたいという気持ちで芽生えました。大人になり、会社員として働いていましたが、24歳の時に今始めないともう農業は出来ないかもしれない、と強く思うようになりました」と農業の道を選んだきっかけを話す椿さん。1年間将来について考え、関城地区で梨農家を営む親戚を手伝いながら、自分の気持ちを見つめ直したといいます。そして25歳の時に埼玉県から筑西市へ移住してきました。「祖母が旧関城町出身で、何度も遊びに来ていたのですが、来る度に梨畑が少なくなっていく様子に寂しい気持ちを持っていました。農業を始めようと思ったとき、後継者不足の状況を伝え聞き、少しでも産地を守る力になればと思うと、梨農家の道を選びました」と話す椿さんには、関城地区や梨への思い入れの強さを感じました。

## 毎々がチャレンジの年

初めから順調だったわけではありませんでした。振り返ればたくさん苦労があったといいます。「初めは畑を借りることに苦労しました。梨を作り始めてからも、毎年

がチャレンジです。前年の反省点を改善しても、毎年必ず何かあります。ここ1、2年は気候変動の影響で豊水が作りづらいですね」と話す椿さんですが、5年目の今年は更なるチャレンジの年を迎えます。「今までは借りた畑で梨をつくってききましたが、今年は遂に自分の畑を買いました。新しく苗を植え、一から始めます。梨の木は成木するまで約5年、そして一度植えたら何十年と管理が必要です」と夢に目を輝かせます。その奥には、永くこの地で梨を作っていくのだという強い意志が宿っていました。椿さんの挑戦は、これからも続きます。



移住就農者インタビュー動画を公開しています。こちらからご覧ください。  
(令和4年2月制作)



## 今注目の茨城県オリジナル品種

### 恵水

恵水は「新雪」と「筑水」を交配し、17年の歳月をかけて育成した県オリジナル品種。酸味が少なく、深い甘みを感じられる梨です。大玉でシャリシャリとした食感も魅力の1つです。



4月	受粉
5～6月	摘果
7～10月	収穫
10～11月	施肥
11～3月	剪定・誘引

梨が出来るまで

	8月	9月	10月
幸水	■		
豊水		■	
恵水		■	
あきづき		■	
新高			■
にっこり			■

品種とシーズン

## 梨の美味しさ広がるニュース



市では、特産品の認知度や付加価値の向上などを目的として、農産物のブランド化を推進しています。今回、JA北つくばの取り扱い「梨」が認証されました。



地元の梨を子どもたちに味わってもらおうと、JA北つくばが市内小中学校の給食で梨を提供しました。子どもたちは目を輝かせながら甘い梨を味わいました。



東京都台東区のふるさと交流ショップで、筑西市産の恵水などを販売しました。訪れた人は「ずっしりとしていて、食べ応えがありとてもおいしい」と笑顔で話しました。



移住就農  
思い出の地で農業を  
椿 龍平さん (30歳 舟生)

関城地区は、日本で最も古い梨の産地の一つです。7月の幸水の出荷から始まり、豊水・恵水・あきづきなど品種は移り変わりますが、10月下旬まで家庭で楽しめます。「今年雨が少ないので生育を心配していましたが、例年同様のできでとてもおいしいですよ」と教えてくれたのは、関城地区で60aの畑で梨を育てる椿龍平さん。  
夏の暑さが残る9月中旬。埼玉県川口市から移住してきた、若き梨農家取材しました。